

370

特500

320

社会大衆党の危機

8. 8. 2 P

削除



0006508000

0006508-000

特500-320

社会大衆党の危機

大月社会問題調査所

昭和8. 8

ABF

禁安 1-526

機、又等至るものと同列する。何故に危機とすを見なければならぬ
ハハ、以下その奥に隠して述べてみやうと思ふ。

筆者は又の所謂新政策「転換期日本の建設政策」をめぐつておこされ
た反対などん分形、どんなイキサツなものがあつたか一覽しやう。

先きに(六月末)発表せられたその所謂新政策については、重ねて繰返
すこととしなす。是に反対する批判と反対とは同党大阪府聯合会によつて
その最初の烽火をあげられた。

七月十四日大阪府聯合会の常任委員会が開かれた。

その席上その政策に對する「態度決定」が議題にされた。必し常任
委員会は頭から反対であつた。こんな重大な政策を党の重要な機関に不
け本誌論を發表した政策委員会のやり方からして怪しからぬことハ小
反対も出た。ところがその結果、「新政策中の國民経済会試及び東洋経

済会試の提唱は、政策委員会の越権行為であると共に、党指導精神の突
更を意味するものと思ふから、本案を即時撤回するが、それではなけれ
ば至急党責任者を下取させて案の内容を説明する機、党本部に要請
しやうとハ小要求がなされた。この申達は即時なされたらハハ小それに対し
て党本部は執筆者の河野密氏を病氣で下取出来なハとハ小意味の回答を
寄せた。

大阪府聯合会は越えて七月十九日、更に執行委員会を開催した。約三
十名の執行委員出席の上この問題について協賛を求めた。ところが執行委
員会の盛気も建設政策に對しては大体反対で、本部をして之を撤回させ
やうとハ小要求がなされた。たゞその方法には申論を求めた小結句
九にハ、ゆり横の決議文の趣旨が決定され、尚決議文は全国の各支部に
も発送される事になった。

決議文

本府縣は今回の國民試会及東洋経済試会の新提唱は單に政策委員会の越権行為である許りなく党指導精神の變革を意味するものと考ふるに
より本案を即時撤回する事、もし撤回せざる場合は終局的決定を保留し
吾党未嘗有の重大なる試題に付き関東、関西其他地方別に本部より出張
の上協試すべき要ありと認む。

本部は独裁的方法を捨て党内スモクラシーの確立の爲め本縣合会が行
決試を尊重せられし事を求む。此の問題に付ハては各地方別に協試する
ことを確信し此際特に本府縣合会所属中央執行委員は来る二十二日中央
執行委員会に出席せず。

X
X
X
X
X
X

新政策に對する反對は右の大政府縣の外には、長野縣聯合会も聯合会
の決試をもつて反對を表明した。又東京府縣の杉並支部を始め豊多摩地
方支部協試会にも反對決試不見られた。併し全国的には明白な反對を表

明は尙少かつた。尤も東京に於てハて社大党の最も重要な地盤である大
政府縣の反對は見逃すことの出発点ハ大なる意味をもつてゐた。

七月二十二日開かれる事に決つた社大党中央執行委員会は、不
なり紛糾を捲きおこすのでないハか、充分注目し値した。委員会は、七
月二十二日東京芝浦日本海員組合樓上に開かれた。出席委員は安部磯雄
氏を始め杉山元次郎、龜井貴一郎、原生善院長、片山哲、河上丈太郎、
木谷長三郎、河野登、浅沼稻次郎、三輪壽壯、田所輝明等約四十名、

愈々開会してみると、問題の「建設政策」に付ハては、長野縣縣、大
政府縣の委員等から攻撃的質問が、かなり有効に展開され、簡單に試案
を決定することの困難である事を充分にわきまにせしめられた。これに
か、何となくも大阪側は一、二の閉士を送つたのみで、出席をサボタ
ージュしたのと、反對のため全国的組織的聯絡が殆どとられかけた、
ゆえに、豫想された横断波瀾もなく案外平靜に試事は終始した。尤も建設
政策はその寸、可決確定に到らず九説十名の特別委員の批と小争りの

つた。

(委員)

田萬清臣、野澤、勝、三宅正一、河野密、後稻箱次郎
亀井賢一郎、斎藤健一、須永好、松永義雄、山川宗妙

以上の様なわけ、問題の新政策は、大一個の草案に止むべく、決定
にまで立到つてゐない。大阪府縣は決意をもつて党の中央執行委員会に
サホつた。これは無産運動の常識的な規律から見れば所謂非階級的な行
為として指導されなければならぬものである。それだけに新政策案が
及つて委員附托になつたのは、実刀、^ある大阪府縣などの反対を一切に押
切ることの危険を充分に意識したからの事であらう。大阪府縣としては
これを面目が一應立つた事になる。茲で妥協にこせなければ「新政策」
をめぐる紛争は別段とりたて、云小ほどの大問題ではなかつた。

(大々その妥協の上は新政策その事、不残なる、それとも訂正されるか、
その結果によつて、社大党そのもの、傾向を全体的に批判する可能性は
へるからである)

大阪府縣はその後(七月廿六日)全国労働力中央委員会に出席のため乗取
りた河野密氏(問題の建設政策の執筆者である)ははれて来る)を迎へ
て懇談会を開いた。併し之はあくまで懇談会であつて正式に何等決定的
な協定を押し出す、める事は出来なかつた。大阪府縣の反対運動はこれに
終つたわけではない。問題の調査、研究、並に対策のため小委員会を
特別に設けて之に一任した。小委員会は果してどんな決定をやるか。そ
れが本部との妥協に終るか、どうもおそらく今秋の間に決るであらう
社大党全国大会までには、是非とも何等かの結論を得るべきであらう。

x
x
x
x
x

⑩
は既に同氏の手に渡つたといふ横柄のこともつたえられてゐる。之は
ハハにも見て来た後、話であるから遠慮することにしやう。それ
麻生氏の意向は何にもつくか、同氏の思想的、心理的、政治的等々
理由は別として、専ら國維会の系統をひく○○○○の○○○○代等の、
つくものと云はれてゐる。同社大党の傘下、つらなつても然然としな
かつた松岡、西尾氏等と麻生氏との間には既に齟齬が成り立つたとい
れてゐる。社大党の呼聲組として有力な田所輝明、河野登氏等も同一の
行動をとるであらうし、全國労働の幹部も動く、殊に大阪の中心である
鈴木悦次郎、山口常次郎氏等も一語に走ることを思々たしかたと云はれて
ゐる。

あまりに穿つた話の横柄か、先日河野登氏も下阪した時、極力同氏は
大原研次郎の森戸辰男氏を勸説したと見る向きもある。森戸氏は表面に
こせ立つてゐるハハ、鈴木悦次郎氏全國労働大阪地方の幹部を通じて、
全國労働、社会大衆党にある程度の影響を興へて来た人である。河野、

鈴木氏等は森戸氏の向背を重要視し、是非一、道運れ丸したハと考へ
るに力かかひハ。森戸氏も動くまじうか、それは今茲ではどうでもハ、
問題である。唯々同氏を引合ひに出した力は、そこを政治運動かたこ
れてゐると見る向き、おろとハハと丸明かした力で、あか。
さて上の様な風説は、今のところ尚風説である。当季春に亂れたら一
笑に解されるか、ともすれば抗試を食ふかも知れなハ。吾々はその真
実を否かは、唯々時日を以て見方の外ハ。大々それか結局一個の天々
であらうといふこと考へられると同じ程度で、そればかり得る事であ
る、真実であらうと考へられるハ二といふハカである。

⑪
麻生久氏は数年前に、既に平野力三氏（今、日本農民組合の指導者で
こんど國家社会党を去り皇道会に轉り属してゐる）等と、錫旗党の討
闘を大々大争かあると噂されてゐる人である。之はむしろ先見の明か
つたのを若し実現してゐたら同氏は今頃アツシヨ陣營では有力な大先
遣に立つてゐるであらう、それはとハハ、そのアムビシマスな笑、

分肌、理論よりも実践を——掛くも理論家であるよりも情熱家の性格
等、現在の如うな情勢のもとにおいて刀をよハ勸説をうけた場合、フア
ツツヨ転向をやらぬハ人物だと雖も保証しなハと云ふはあり。

フアツツヨの持論、五、一五事件共産党巨頭（でこへわり）転向等々
の事実、第二次世界○○の切迫、支配階級の○○政策等々、今日の社会
情勢を觀るならば勿論の事であるか——あまりに一般的な情勢であるか
ら今この場合特別に問題としなハとしてお——社会大衆党の指導精神の
主流が社会民主主義か今日、尤は天産主義、右はフアツツヨスハの秋、
それにて頗る動搖し無力化してゐることへそれはドイツで始諸外國の生
活大衆例を見ても將來を殆ど約束されなハ。或いは又社会大衆党自身の
絶えざる内部紛争、その不結果等々ハハハハの事実も社会大衆党書記長を
して局面打開策（党の局面打開と共に多分自己の局面打開）を考へて
せるに充分であるやうだ。

巷間傳 小方と云ふにすれば、こんどの大日本生産党補兵隊事件は、今

年の秋○○に少く第二の○○○事件が行はれさうな事案か
ので、それの概先を制してやうかと云ふたので云はれり
ハハ○○○替○○○氏の息かか、かてゐるのやと云ふことし
れてゐる。吾々はその真偽を全く知りなハ。だがそれは
もてゐる事を示すものではあり。

よくて社大党有力幹部のフアツツヨを強固も案外早く突現するかも
かなハ。それこそ今秋の大公に於て反フアツツヨ派の「建設政策」
好むと云ふやうな腹にわくと積極的意識的フアツツヨの旗本格に
れやうとするやうな腹にわい。建設政策、それら紛争の重要性は
反対論かハハハ社大党を分裂するまで導く様な致命傷になりはしなハ
ハ小争より、建設政策、は最初の第一歩であつて、それを敵え
唱しやうとした眞の動機は、積極的フアツツヨ転向へおしす、め

とする計画と策謀の上に立つてゐるものでないか。八小争突である。
社大党に作用するところのものは、又日本に於ける組織労働者の七割
を占める日本労働組合会派にも必然に作用するであらう。一個の根據
なき天馬、それとも眞実な、問題の波及するところは非常に大なる
である。

大々組織労働者は簡単に指導者の思小通り動くものではない。全国労
働に於ては相当に信頼をもつてゐる大嘗つての委員長大矢省三氏も國家
社会党へ走つた時の有様は前重の覆轍として全労幹部はよく知つ
てゐる筈である。右翼労働組合と自他共に断してゐる總同盟にさへ反対
派の動きもある。全国労働には全労統一全国会派を別にしてその組織の
内部に幹部反対派もつてゐる。河野、藤川氏等の大擧出の秀才は云ふ
寸でもなはとして、労働者本身で有り長く組合運動に従つて来た、鋭悦

山内氏等にも果して充分の確信と成算とを以て勇氣があるであらうか。この
疑は尚舊々の疑問のうかへ止めておく。七月十三日大阪の九條会館に於
て開かれた全国労働大阪府聯合会の大会に反映した空氣をみても、問題の
「建設政策」に対するフアツシヨ化の指摘も現はれたし、全幹としてフア
ツシヨを如何にとほしても組合員大衆も承知しさうにないハ形勢であつた。
これを幹部たちはどういふ小畑に見るのであらうか。

風説に基く筆者の解説はこれ位にとゞめやう。風説を重なるさま
あり、それか解消すれば社大党の危機は解消するが、筆者は茲で「否
」と答へなければならぬ。若しこの新政策に対して大阪を中心とする反
対派はあくまで反対のため立つておらう。そのとき本部も妥協的態度
をとり、それにとりかき、これを大々の提唱を固執すれば茲に正面衝突は避
けられぬ。そのあとに来るものは何であるか。筆者はこのとき社会大衆党

今日日ごんが内部情勢があるが充分に考慮に入らなければならぬ。社大党は云々でもなく社会民衆党と労農、衆党との合同の上に出発したものである。ところがこの合同は今日まで約一ヶ月、社大党は今日も尚ほ然る統一も大なりされず、この二勢力の間には聯合会に下つては対立するが、その一方の系統が支配的で他の系統のものは消極的な反対をうけてゐる。大阪府議に於ける所謂新政策の反対は主として旧大衆党系の幹部に下つてゐる。本注目されねばならぬ。そのハ小横に両党の合同はなされることが一つの組織に特化されず、再組織されず、従来の主張、指導精神、努力争ひ、感情が死なぬ二つの党派の如く今日も尚ほ内部に作用しつゝ、あつた。これは社大党にとつてあらゆる意味で最も重大の問題であり、その最大の痛手分けはならぬ。現に社大党にとつて一番大事なのは選挙場面の選挙のときであつてはハつてもこの奥に察知し、やみか胎胎するものである。

去る六月一日執行され大阪市会議員の選挙戦に於ては、此花区に於ける藤原健三氏（旧社民）と河野勇氏（旧労大）との対立、港區に於ける田万清臣氏（旧労大）と日秋喬一氏（旧社民）の対立などが見られた。同一選挙区であつても地盤安定の上で立つたものがあつたりは何等の問題はなかつた。この二区は如きは全くの対立であつた。これら候補者も應援した社民、労大出身の幹部の動向は夫々時時自分と露骨なものであつた。

同じ事は九州の八幡市の市選戦にも見られた（本年五月一日）同一区に於ける両党派の対立——とハ小より乱立は、御大藤原健三氏（旧労大）の当選させられた。随分無用の犠牲を拂つてゐる。

一方、内部の不統一、党内二党派の対立——この対立があるところを全、國労働、合同問題の如きは殆ど論議にも上らせなハ、その原因、理由は、党勢不振の情態にあるものと見なければならぬ。

特500
320

昭和八年八月廿一日 印刷
昭和八年八月廿四日 發行
（非売品）
大曾文庫之技術不抜也
發行所 大曾社会問題調査所
著者 長尾桃郎

